

20年度のはじまりにあたり

会長 吉本清信

1月の評議員会で役員改選が行われ、新執行部での新年度がスタートしました。

総務部（阪中）指導部（上田）審査部（土谷）女子部（深田）の各部長は留任。財務部に眞鍋征史、競技部に松田仁、強化部に藤岡順の各氏をお願いすることになりました。

また、各業務の担当者も若干変更になりました。今年度活動の重点項目として、以下のようなことを考えております。

- 1) 支部活動発展のためそれぞれが抱える問題について検討
- 2) 事務局の負担軽減のためのマニュアルを作成
- 3) 公認スポーツ指導員資格取得に向けた対策
- 4) 公式ホームページの開設・運営に向けて
- 5) 武道館建設に向けての活動

担当者始め、会員各位のご協力・ご支援をお願い致します。

春の地連審査結果

第213回 橿原公苑弓道場

1級 127名、2級 44名、3級 15名、4級 27名
5級 4名でした。

第214回 奈良市弓道場

1級 152名、2級 11名、初段 25名、弐段 19名
参段 6名、
四段は栗栖久夫(奈良市)、村高恵利子(奈良市)の
2名でした。

第215回 橿原公苑弓道場

初段 25名、弐段 27名、参段 4名、
四段は下川治子(郡山市)、大西洋亮(郡山市)、
森川 昭(郡山市)、荒木貴司(郡山市)、
加藤順三(奈良市)の5名でした。

(審査部)

◆ 競技部よりお知らせ

昨年度は、競技運営にご協力を頂きありがとうございました。今年度の競技内容の変更についてご連絡を致します。

- 年齢別選手権が無くなり、ねんりんピック予選は4月27日の遠的選手権開催時に近的道場にて行います。ねんりんピック予選参加の申込みに関しては、当日参加の受付を致しますので申込みの遅れた方もふるって御参加下さい。
- 新年射初会も競技内容が、三人立ち四射から四人立ち一手に変更になります。

主な変更点は、この二点ですが不明な点がありましたら便覧もしくは競技部員へご確認をお願い致します。

称号者の先生の方々には、今年度介添え担当が変更になっておりますのでご確認をお願いいたします。やむを得ず、ご欠席される場合は松田までご連絡を頂きます様宜しくお願い致します。

今年度も競技運営に御協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

《訂正とお詫び》

百射会奈良会場成績で、女子三位井上ゆみ子さんとなっておりますが、正しくは矢野由起子さんの間違いでしたので訂正を致します。

(競技部 松田 仁)

■ 県内行事予定 (五月～七月)

- 5/03 (土) 県中学校練成大会
- 5/05 (日) 高校総体 県一次予選
- 5/25 (日) 国体成年予選 (第二回) 県総合選手権
- 5/31 (土) 高校総体 個人予選
- 6/01 (日) 称号者大会 審査員研修会
- 6/08 (日) 高校総体 県二次予選
- 6/15 (日) 国体 成年、少年最終選考
- 6/22 (日) 伝達講習会
- 7/05 (土) 県教職員大会
- 7/06 (日) 県民体育大会
- 7/13 (日) 県女子講習会
- 7/20 (日) 第216回地連臨時審査
- 7/21 (月) 県中学校総合体育大会
- 7/27 (日) 伝達講習会(学校指導者)

支部めぐり

石打支部 編

石打弓道場は梅林で有名な旧月ヶ瀬村（現在は奈良市月ヶ瀬）の西浦先生の自宅敷地内にあり、3人立ちのこじんまりした建物で、矢道は西浦先生手づくりの芝生がきれいに刈り込まれています。（バンカーもあります。）塚の向こうには10数メートルは優にある杉が何本もそびえ、晴れた夜は星空がとっても美しく、矢道の両側の土手には間もなく茗荷が無数に芽を出します。（摘み取ってはいたいて帰り、ザル蕎麦などの薬味に重宝しています。）



練習は毎週月曜日の夜7時過ぎから9時まで、準備のできた者から始め、7時半には揃っての稽古になります。最近は巻き藁での稽古が主で、めったに的前に立つことはありません。（冬は暖かくて大いに助かっています。）吉本・西浦両先生による射技指導はこの道場ならではでないでしょうか。お互いに意見を出し合いながら、射技の向上・研鑽に励んでいます。

私は2002年の秋ごろからのご縁ですが、当時は村の高校生の女の子やそのお母さんも練習されていました。現在は数名の連盟員が遠い道のりをものともせず通っています。様々な話題が出る練習後のお茶の時間もまた楽しみのひとつです。（西浦先生の奥様へ。いつもおいしいお茶とお菓子をありがとうございます。）

おわりは無事の練習に感謝し神棚に一礼、かたづけをして道場を後にします。
(松井成之)

編集子より：自分の所属する支部、道場以外のことをあまりにも知らなさ過ぎませんか。同じ県内の仲間として切磋琢磨するのに役立てばと、もっとお互いを知り合う場として企画しました。支部の運営方針、ユニークな活動など支部紹介の投稿お待ちしております。（伊藤）

歳時記

「五月」 端午の節句

端午の節句は、武家時代には最も重要なものでした。江戸幕府では武家総登城の日で、大名、旗本全員が袴をつけて江戸城に集りました。五月の端午（うま）の日を節日としていたのですが、重ねる午（ご）、重午の習慣から五月五日となったといえます。

本来中国の伝承から発する日で、この日用いるちまきなどには中国の伝説があります。しかし奈良時代には、日本でも節句となっており、馬に乗って弓を射ることや、あ

（くらべうわれまし
五月の花も、色々な用いられたてしています。香り、葉の根は薬草と



るいは競馬（ま）などが行た。である菖蒲飾りなどに記録が残った。菖蒲はその形とともに、して重んじ

られましたので、屋根にさし、髪にさして健康を祈ったのです。菖蒲酒、菖蒲湯などの習慣も、根がことに薬草として大切にされていた為です。

この菖蒲が髪に挿花として用いられたのが菖蒲兜となり、やがて木製兜となって、武家の時代になると武具、幟（のぼり）となっていきます。これも菖蒲が勝ち負けの勝負を連想させて、男の節句にふさわしいものとされてきたからでしょう。

幟（のぼり）は子供の健康と武運を祈って、室内に飾られていたものが次第に戸外にたてられるようになり、五月の節句独自の幟となったものです。＜中略＞飾り人形もおそらく武具飾りが、広く一般の民間風習となるにしたがって武將をあやかる人形や、男らしさ象徴する人形となったもので、徳川中期ごろからの習慣です。

鯉幟（こいのぼり）なども、幟がのぼるその勢いに男らしさを感じ、一方では、まな板の上の鯉のいさぎよさ、あるいは鯉の滝のぼりなど、鯉からうけるイメージに男の生き方を象徴したものです。この気持ちが鯉幟になったのですが、これも徳川中期以降のことです。五月晴れの青空に鯉の泳ぐ姿を吹流して、子供への愛情と季節の感覚をみごとに結びつけた当時の人々の心には、感心させられてしまいます。最近豪華な飾り人形も多くみられますが、紙で折った兜に紙の鯉幟でも、健康への祈りと愛情は生かされるでしょう。

「小笠原流マナー」 著者小笠原清信 グラフ社発行より
中塾狛大学藤原孝澄(中塾広樹)